

NJ 素流協 News

平成20年9月25日 第45号

平成20年9月25日発行・発行所 ノースジャパン素材流通協同組合 〒020-0024 盛岡市菜園1丁目3-6 (農林会館9階)
 TEL 019(652)7227 / FAX 019(654)8533 / <http://www.soryukyo.or.jp/index.html>

平成19年木材需給調査結果

用材自給率二二・六％に

林野庁はこの八月に平成十九年における木材需給の調査結果を公表した。

今回の公表内容とこれまでに公表されている内容により、平成十九年用材需給量を中心に説明する。
 ▽用材需要量は、パルプチップ用材が最多

平成十九年度の用材需給量は、前年より四、四二一立方メートル(五・一%)減少して、八二、三七〇立方メートルとなった。

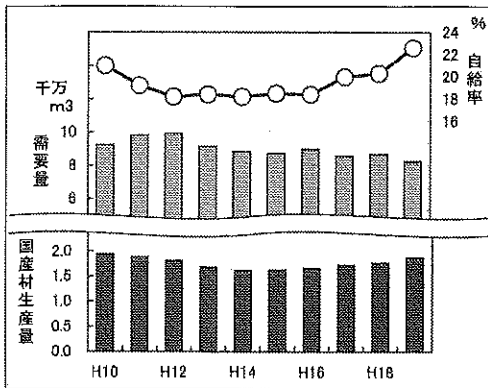


図1 用材需要量、国産材生産量、自給率の推移

この需要量を、用途別に前年と比較すると、製材用材が七・八%、合板用材が十七・九%減少し、パルプチップ用材が〇・六%、その他用材が十二・五%増大している。

用材需要の用途別比率は、パルプチップ用材が最も多く四五・一%、次いで製材用材三七・〇%、合板用材十三・七%、パーティクルボードやOSB用材などのその他用材四・三%となっている。(図2)

▽用材供給量と自給率
 平成十九年の国産材の供給量は、前年より一、〇一八立方メートル(五・八%)増加し、一八、六三五立方メートルとなった。(図1)

また、輸入量は前年より五、四三九立方メートル(七・九%)減少し、六三、七三五立方メートルとなった。
 その結果、平成十九年における用材の自給率は、前年より二・三

ポイント上昇し、二二・六%となった。(図1)

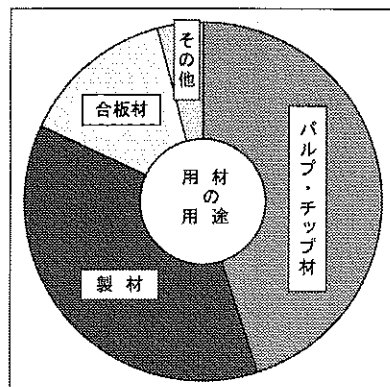


図2 用材の用途別比率

▽国内での素材生産量
 (一) 用途別
 平成十九年の用途別生産量は、製材用六四%、木材チップ用二五%、合板用九%、その他二%となっている。(図3外円)

前年の生産量と比較すると、製材用三六立方メートル、合板用四八八立方メートル、木材チップ用六四四立方メートル、その他三四〇立方メートル増大し、パルプ・チップ用が最大の増大となっている。

また、岩手、青森両県のこの三年間の生産量は、青森県ではあまり変動していないが、岩手県では

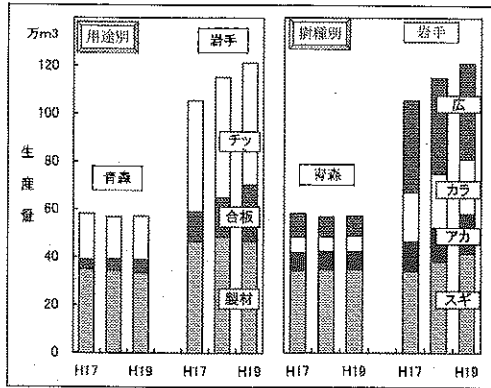


図4 岩手、青森の素材生産量

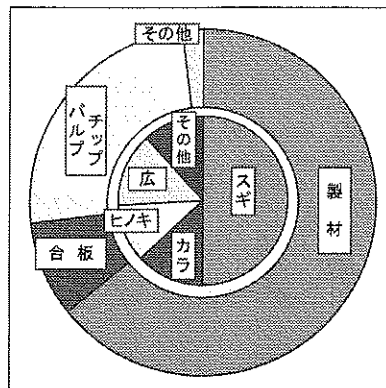


図3 用途別 樹種別 国産材生産量

少しづつ増大してきている。
また、用途別割合は、青森では製材用が最大で、比率にあまり変化がないが、岩手では製材用と木材チップ用が同程度で、合板用比率が年々増大している。(図4左)

(二) 樹種別
樹種別比率は、スギが五〇%と

半数を占め、他の樹種は、カラマツ十三%、ヒノキ十一%、広葉樹十四%、アカマツ・トドマツ・エゾマツなどのその他針十二%となっている。(図3内円)

青森県では、スギの比率が最大で、しかも年次による変化が少なくなっているが、岩手県ではスギと広葉樹が三五%弱、カラマツ二〇%弱、アカマツ十五%弱となっており、各樹種とも若干ではあるが、年々増大してきている。(図4右)

▽合板用素材の需給量
合板用素材の需要量は、平成十九年は前年と同程度の五、二二七立方メートルとなっている。この需要量は五年前より約五〇〇立方メートル増大した量であるが、十年前と比較すると約一、六〇〇立方メートル少ない量である。

平成十九年の供給量は、国産材一、六三三立方メートル(三一%)、外材三、五九五立方メートル(六九%)となっている。

国産材の供給量(自給率)は、平成十六年以降急激に増大してき

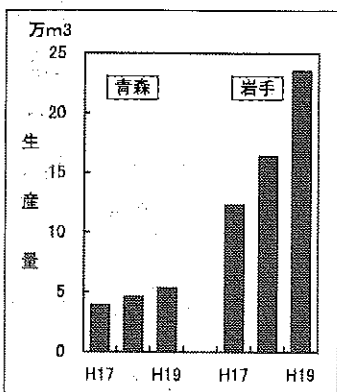


図6 合板用素材生産量

また、供給量を地域別にみると、東北、北海道で七五%弱を占めており、平成十九年の自給率は前年より九%上昇して、三一・二%となっている。(図5)

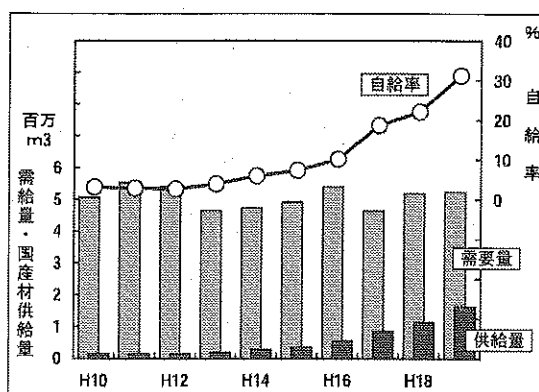


図5 合板の需要量、自給量、自給率

おり、特に、岩手、秋田、宮城が各十五%前後、合計で四五%となっている。(図6・7)

表1 用途による区分

区分	用途	細区分	仕向け先
A材	製材用		
B材	合板・集成材用		
C材	チップ材	a	製紙用
		b	木質ボード用
		c	同
		d	燃料用
D材	林地残材		

表2 廃材チップの区分

区分	チップの種類	仕向け先
上	柱材などのチップ	製紙用
中	胴縁など下地材のチップ	木質ボード用
下	砂や粉の混じったチップ	燃料用

によりA、B、C材などに区分されるが、チップ材は更に細分化されてきている。(表1・2)

用語解説

木材(丸太)は形質や用途

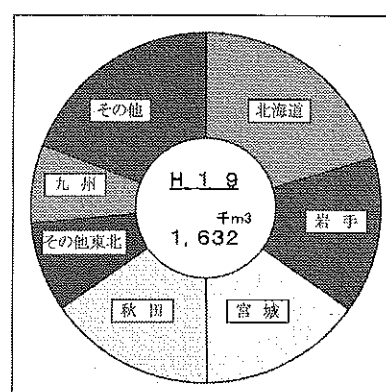


図7 地域別合板用素材生産量

ウッドマイルズ講座 (10)

ウッドマイルレージの計算法とその限界

ウッドマイルレージを測定・算出する方法としては、実際の輸送経路を調査追跡して積み上げる方法と統計データを利用して算出する方法がある。

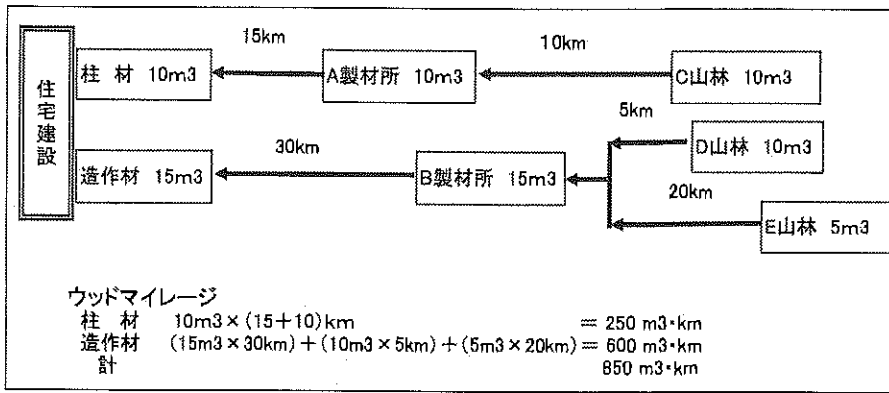
一 輸送経路積上げ法

実際の輸送経路を伝票や聞き取りなどによって追跡調査し、その結果を積上げて算出する方法である。

住宅建築物の場合、使用木材を構造物(土台や柱、梁桁等)、準構造物(構造用合板、根太、間柱、垂木等)、下地材(合板、野地板等)、仕上材(天井板、壁板等)、造作材(敷居、鴨居等)に区分し、それらの輸送経路を山元までさかのぼって追跡し、それらの量と輸送距離を乗じて求める方法である。

この方法は、個別の事例について求めることから、実際に近い値が得られる可能性が高い。しかし、この方法により得られ

1 輸送経路積上げ法計算例



るデータは個々の事例であることから、流通量全体のごく一部のものであり、全体の流れを反映したものではない。

2 統計データ利用法計算例

生産県	青森	岩手	埼玉	計
消費県				
宮城	① -	④ 300	⑦ -	300
埼玉	② 60	⑤ 40	⑧ 100	200
東京	③ 30	⑥ 50	⑨ 20	100
計	90	390	120	600

生産県	青森	岩手	埼玉
消費県			
宮城	① 300	④ 200	⑦ 300
埼玉	② 700	⑤ 400	⑧ 10
東京	③ 800	⑥ 500	⑨ 50

ウッドマイルレージは両表の対応する欄の数値を乗じて総和する。
 ①×300+②60×700+③30×800+④300×200+……+⑨20×500=169,000m³・km

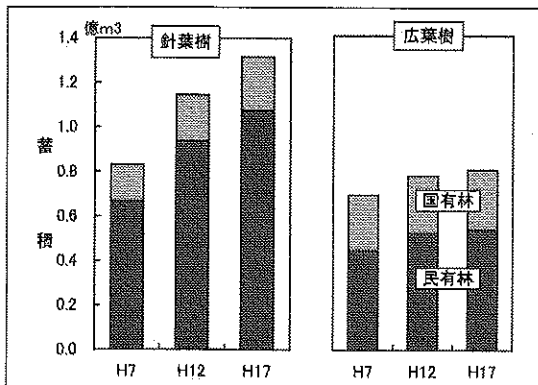
なお、この手法においても、全ての経路が判明することはまれであり、その場合には、産地や流通地点を出来る限り推定して輸送距離を求めることとなる。

二 統計データ利用法

この方法は、素材や製品の地域間交流表とそれら地域間の距離を乗じたものを総和して求める方法である。

この方法は算出が容易なうえ、

蓄積量の推移(岩手県)



岩手県の森林蓄積は民有針葉樹林の成長により、十年前の約一・五倍に。

トピック

その結果は流通量の相当部分をカバーするとともに、そのデータが得られさえ出来れば、経年変化を追うこともできる。しかし、適当な統計データがなければ、この方法によるウッドマイルレージ算出は不可能であり、仮にデータが存在していても、そのデータの正確さによってウッドマイルズの精度が大きく左右される。

一葉 樹皮 (4)

樹皮の剥がれ落ちとその利用

丸太から樹皮の剥れ落ちや剥皮は、林地で樹木が伐採されてから製材所に運びこまれるまでの過程でなされるが、その処理上問題となるのは、原木市場と製材工場においてである。

製材工場で発生する端材やおが屑、樹皮などのいわゆる木質バイオマスの量は、全国で一、〇七八万立方メートル(平成十七)となり、このうち九四・六%は利用されているが、五・四%は廃棄されている。

樹皮の利用割合は、八六・五%で最も少なく、一三・五%のものが利用されずに捨てられている。燃料等のエネルギーとしての利用が最も多くなっている。

一 樹皮の剥れ落ちと剥皮量

(一) 原木市場

表は、群馬県での調査事例であり原木市場では丸太材積の〇・二

表 原木市場での樹皮発生量

原木市場	取原木材積 (m ³)	発生樹皮材積 (m ³)	樹皮発生率 (%)
A 木材流通センター	38063	59	0.16
B 共販所	25208	67	0.27
平均			0.22

二% (体積量) の樹皮が剥れ落ちている。

(二) 製材工場

製材工場での原木入荷量から製材品出荷量を差引いた残材率は、群馬県のある工場で三六%となっており、また、他の報告書では三%、三四%となっている。

また、製材工場での残材を区分すると、端材六一・二%、おが屑一九・四%、樹皮一九・四%という調査値がある。

これらのデータから、製材工場で剥れ落ちたり、剥皮される樹皮の量は、丸太材積の六・六%の量となる。

(三) 樹皮の発生量

丸太が木材市場に持込まれてから製材工場加工されるまでに、丸太から発生する樹皮の量は、材積の六・八二%となる。

この数値から、平成十九年の用材向け国産材から発生する樹皮量を求めると、全国で一、二〇三立方メートルとなる。

また、岩手県では八二千立方メートル、青森県で三八千立方メートルとなる。

二 樹皮の利用

樹皮は、古くは衣類の材料や屋根葺き用材、コルクの材料などに使われてき、今でもキハダの樹皮が胃腸薬の原料、ミツマタやコウゾの樹皮が和紙の原料、サクラの樹皮が工芸品の材料として使われている。

現在、最も多く使われているのは燃料などエネルギー利用(三六%)

で、次いで堆肥・土壌改良剤の原料(二八%)、畜産敷料(二八%)となっており、それでもなお一四%の樹皮が未利用のまま廃棄されており、その処理に困っている。

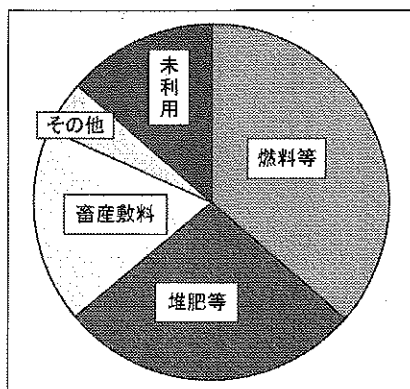


図 樹皮の利用割合

近年は、その有効な、或いは効率的な利用のための研究開発が多くなされている。

その例として、化学的利用法として、タンニンなど有効成分の抽出、重金属吸着材の原料、難腐敗性樹皮基材による緑化工資材などがあげられ、物理的性質を利用するものとして、通気排水性のある栽培用培地や舗装用資材、製油吸着材や汚泥固化材、マルチング資材などが開発されている。

平成20年8月分の販売実績

- 1 会員生産の合板用出荷量を昨年8月と比較すると、カラマツが約640㎡増大しているが、スギ、アカマツがそれぞれ約1,000㎡減少し、全体で約1,370㎡減少している。また、先月と比較すると大幅に減少し、スギが3,540、カラマツが1,550、アカマツが1,160、全体で6,260㎡減少している。工場別ではホクヨープライウッドが昨年8月比較で3,065㎡、先月比較で5,480㎡と大幅に減少している。北日本プライウッドは昨年8月比較で1,700㎡と大幅に増大したが、先月比較では780㎡減少している。これらの主原因は工場側の受入調整と考えられる。
- 2 その他（合板用以外）の出荷量は先月より若干減少となっているが、昨年8月と比較すると、スギ・カラマツが同程度に増大し、全体で700㎡多くなっている。
- 3 年間計画量に対する8月までの目標出荷量の割合（目標達成率）を41.7%とすると、今月までの合板用出荷は計画を若干下回った進捗状況となっている。

区分	出荷者	樹種	長級	販売先				累計	割合		目標達成率	計画量	
				ホクヨープライウッド(株)	北日本プライウッド(株)	その他	計		長級別	樹種別			
合板用	会員生産	スギ	2.0	1,469	1,660		3,128	28,634	66.4	60.5	43.0	166,000	
			2.1		44		44	153	0.4				
			4.0	719	385		1,104	14,336	33.2				
			計	2,187	2,090		4,277	43,123	100.0				
		カラマツ	2.0	443	1,024		1,467	11,395	64.9				
			2.1					220	1.3				
			4.0	111	1,242		1,353	5,948	33.9				
			計	554	2,266		2,820	17,563	100.0				
		アカマツ	2.0	293	72		365	9,590	90.1				
			4.0	25	29		54	1,050	9.9				
	計	319	101		419	10,641	100.0	14.9					
	その他針							0.0					
	計		3,060	4,456		(148)	(597)		100.0				
	販売用	販売用	スギ	2.0		731		731	1,963				86.9
				4.0					5				
カラマツ			2.0		28		28	177					
			4.0										
アカマツ		2.0					120						
		4.0											
計			759		759	2,266	100.0						
計		3,060	5,215		8,275	73,593		11.3					
その他	会員生産	その他	スギ			460	460	2,405	63.4	39.6	20,000		
			アカマツ			350	350	1,079	28.4				
			その他			46	46	278	7.3				
			その他			13	13	22	0.6				
			その他			870	870	3,797	100.0				
			計			870	870	9,145	77,390				38.0
合計		3,060	5,215	870	9,145	77,390		39.5	196,000				

() はストックヤードからの出荷量 (内数)

冗談欄 日長処理

九月九日は、一桁で最大の奇数(陽数)九が重なるので、重陽の節句と呼ばれ、目出度い日である。

菊の花が咲く時期から、菊の節句とも呼ばれる。

「六日の菖蒲、十日の菊」とは時期が遅れて役に立たないこととで、今様にいえば、十二月二五日のクリスマスケーキみたいなものである。

今や、菊は葬儀の花となった感があるが、花の少ない正月や

冬の花として夜間に電気を照らして、昼を長くして栽培されている。

日長処理は、菊やイチゴなどの植物で一般的になされているが、動物においても実験がなされており、めん羊で短日処理による発情誘発が実証されている。

夜間一杯照らすのを深夜照明、真夜中に照らすのを深夜照明、夕方照らすのを初夜照明というらしい。

少子化が問題となっている昨今、人間様も初夜から長日処理を施されては少子化も無理からぬことか。

林業関係労働災害防止規程解説

【安全教育の実施】

イ 伐木造材機械の操作に関する事項

伐木造材機械（ハーベスタ、プロセッサ等）の運転を行う者に対し、次の事項について安全教育を行わなければならない。

ウ 伐木造材機械の保守管理に関する事項

ア 伐木造材機械の構造及び機能に関する事項

